

# 令和5年度 都市政策部組織目標

<b>組織名</b>	都市政策部	<b>部長</b>	武石 和彦
<b>組織の目的・方向性</b>	<p>地域の個性を活かしたまとまりのある市街地を形成し、道路、公共交通などでつなぐことで、田園、自然に包まれた持続可能な多核連携都市を目指します。</p> <p>駅・港・空港・道路を備える本市の強みを活かし、都市の活力と魅力とともに、身近な住環境の安全性や快適性を高めることで、日本海拠点都市として持続的に発展するまちを目指します。</p>		
<b>(参考) 関連する総合計画における政策指標*</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居住誘導区域に住む人口割合</li> <li>・自家用車に頼らなくても移動しやすいまちと思う市民の割合</li> <li>・都心エリアの平均地価変動率</li> <li>・港、空港、新潟駅、高速道路などの広域交通インフラの利便性が以前と比べて向上していると思う市民の割合</li> </ul>		

※政策指標…目指す都市像の実現や、総合指標の目標達成を図るうえで、各分野において特に重視する指標。各分野の政策指標は市役所全体で共有し、組織横断で目標達成に向けて取り組みます。

## 都市政策部組織目標

<p><b>重点目標</b></p> <p>都市政策部では、新潟市総合計画 2030（まちづくり・インフラ）に基づき、コンパクトなまちづくりの推進、交通ネットワークの強化・充実、人中心のウォーカブルな空間形成、都心部の戦略的な再開発促進、拠点機能の充実・強化に総力を結集して取り組みます。</p> <p>さらに、次世代に対応した職員の育成に取り組み、技術力の向上を図ります。この方針のもと、今年度は、次の5つの目標に重点的に取り組みます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 <b>コンパクトなまちづくりを推進</b>しながら、地域の個性を活かした多核連携型の都市づくりに取り組みます。</li> <li>2 利便性と持続可能性を併せ持つ多様な移動手段の構築に取り組み、<b>交通ネットワークの強化・充実</b>を図ります。</li> <li>3 質の高い投資による<b>都心部の戦略的な再開発を促進</b>し、都心の拠点性向上を推進します。</li> <li>4 新潟駅・新潟港・新潟空港における<b>拠点機能の充実・強化</b>により活性化を図ります。</li> <li>5 <b>次世代に対応した職員の育成</b>に取り組み、技術力の向上と公共工事の品質確保を図ります。</li> </ol>
--

※重点目標における指標や取組状況は、各課組織目標をご覧ください。

## 評価

	重点目標の達成状況	目標数	達成数
<b>取組結果</b>	<p>田園、自然に包まれた持続可能な多核連携都市、日本海拠点都市として持続的に発展するまちを目指し、取り組みを進めました。</p> <p>『1 コンパクトなまちづくりを推進しながら、地域の個性を活かした多核連携</p>		

型の都市づくりに取り組みます。』(達成)

人口減少下においても、持続的にまちづくりを進め、本市に住み続けていただく、選んでいただく住環境の提供が必要であるため、区域区分の全体見直しにあたり、時代の要請や市民ニーズを満たす土地利用の活用提案を募集し、候補地区の絞込みを行うことができました。引き続き区域区分の変更に向け、関係者との協議・調整を進めていきます。

『2 利便性と持続可能性を併せ持つ多様な移動手段の構築に取り組み、交通ネットワークの強化・充実を図ります。』(一部未達成)

生活交通の確保維持・強化に向けて、官民連携によるバス停上屋やベンチ、バス情報案内の整備等によりバス待ち環境の向上を図ったとともに、エリアバス×タクの運行計画の変更を行うなど利便性の向上に努めました。

『3 質の高い投資による都心部の戦略的な再開発を促進し、都心の拠点性向上を推進します。』(達成)

・西堀通 5 番町地区第一種市街地再開発事業の都市計画決定を行い、さらに新潟駅南口西地区新潟都心地域優良建築物等整備事業の工事等を促進し、都心の拠点性向上に寄与しました。

『4 新潟駅・新潟港・新潟空港における拠点機能の充実・強化により活性化を図ります。』

新潟駅高架下交通広場及び万代広場(東側)の工事進捗を図り、3月31日に新潟駅バスターミナルを供用開始し、南北市街地の一体化による交通結節機能の強化を図りました。

国際拠点港湾である新潟港では、国際物流総合展への出展や新潟港セミナーの開催など、県など関係者と連携しながら積極的なポートセールスに務め、輸出の実入り取扱貨物量が前年度を上回る結果となりました。

『5 次世代に対応した職員の育成に取り組み、技術力の向上と公共工事の品質確保を図ります。』(達成)

民間の関係者の協力のもと、実地研修を開催し、机上研修のみでは得難い技術力の向上に努めました。

併せてWeb会議システムを利用した研修を開催し、過去のアンケート結果などから内容を見直すことで、受講者の理解度向上を図りました。

今後の方向性

田園、自然に包まれた多核連携都市を目指し、本市に住み続けていただく、選んでいただくまちづくりを進めていきます。

求められる市民の足として持続可能な公共交通を目指し、多様な移動手段の構築に取り組みます。

脱炭素化や物流 2024 年問題など社会的要請に対応しながら、新潟港・新潟空港の機能強化に向けて、国・県など関係者と連携した継続的な取り組みを進めます。

新しくなった駅舎や駅直下バスターミナルの開業が刺激となり、民間ビル開発が活発化しています。引き続き万代広場の整備を進め、これらチャンスを最大限活かしながら、「新潟駅・万代地区将来ビジョン」の具現化を図っていきます。